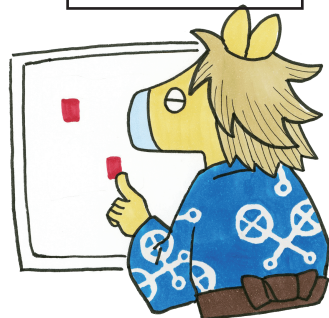


浮世絵が描く鎌倉幕府の物語 —個性豊かな御家人たち—

浮世絵館だより

藤沢市
藤澤浮世絵館

2022年
2月
WEB版



藤澤浮世絵館展示

「浮世絵が描く鎌倉幕府の物語—個性豊かな御家人たち—」では、浮世絵に描かれた個性豊かな武将たちを、そのエピソードとともにご紹介しています。

ここでは①鎌倉幕府の初代将軍 源頼朝、②頼朝の命により江の島へ弁財天を勧請した 文覚上人(出家前の名は遠藤盛遠)、③藤沢の大庭地域を本拠地とした武將 大庭景親、④鎌倉幕府の初代執権として頼朝を支えた 北条時政の四人を紹介します。

①源頼朝

月岡芳年「大日本名将鑑 源頼朝」
明治一—一五年頃(一八七八—八二)



月岡芳年の「大日本名将鑑」は明治初期に刊行された全五一点の浮世絵からなるシリーズ物です。神話時代から江戸時代初期までの、将軍・英雄・戦国大名などの「名将」が描かれています。

この作品には、源頼朝が由比ガ浜で千羽の鶴を解き放つたとされる放生会の場面が描かれています。頼朝による放生会は文治三年(一一八七)より鶴岡八幡宮にて行われ、その際には流鏑馬も奉納されました。源義経が衣川の戦いで自害するのは、二年後の文治五年のことです。

②文覚上人

豊原国周「市川團十郎演芸百番 文学上人」
明治三十一年(一八九八)



明治の浮世絵師・豊原国周の「市川團十郎演芸百番」シリーズの「文学上人」。「文学」とありますが、読みは同じです。

文覚は平安時代末期から鎌倉時代初期にかけての真言宗の僧侶です。俗名は遠藤盛遠といいましたが、出家後に伊豆に配流された時に源頼朝と親しくなり、頼朝が征夷大將軍として存命中は、幕府側の要人として大きな影響力を持っていました。頼朝の命で、江の島へ弁財天を勧請しています。

藤沢市の遠藤には、遠藤盛遠を地名の由来とする伝説があります。

③ 大庭景親

歌川国芳「石橋山伏木隠 大場三郎景親」
天保一四年・弘化四年(一八四三・四七)

恩こそ主よ



大庭景親



平安末期に藤沢(大庭)近辺で活躍した、大庭景親です。武者絵に描かれるのは戦いの勝者だけではなく、その時々を歴史を彩ったヒーロー達です。

景親は関東平氏の代表的な武将で頼朝の旗挙げに対抗した石橋山で勝利を収めました。石橋山の戦いでのエピソードのひとつに「頼朝の伏木隠れ」があります。頼朝が合戦に敗れた後、山中の伏木に隠れているのを、搜索していた梶原景時が姿を見つけました。しかし、味方には「誰もいない」と告げやりすごし、頼朝を助けたというものです。

魅力的な武将たちのエピソード!

④ 北条時政

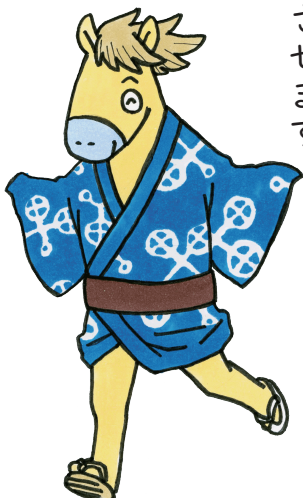
月岡芳年「芳年武者无類 遠江守北條時政」
明治一六年(一八八三)



北条時政は源頼朝の岳父(政子、義時の父)で、初代幕府執権として初期の鎌倉幕府を支えました。

画は、時政が江の島の岩屋に参籠し子孫繁栄を祈ったところ、弁財天が現れたという場面です。時政は弁財天に恭しく平伏して手に扇を捧げ持ち、扇の上には三枚の鱗が遺されているのが見えます。弁財天は右手に鍵(宝蔵を開けるもの)、左手に宝珠(如意宝珠)を持っており、後光が満月のように輝いています。荒れ狂う波の動きが、鱗の主である竜(大蛇)を連想させます。

みんなかつこい
いね!



浮世絵が描く鎌倉幕府の物語

歴史の物語を描いた「武者絵」は、テレビのない時代に、物語をビジュアルで紹介する人気のメディアでした。三枚続きの作品の中に描かれた、ドラマの一端をご紹介します。頼朝が亡くなった後、鎌倉幕府は御家人等十三人の合議制となりましたが、NHKの大河ドラマ「鎌倉殿の13人」は、この合議制に加わった人々の織り成す物語です。物語の元ネタは、『平家物語』(鎌倉時代の軍記物で、琵琶法師によって語り継がれた)や、曾我兄弟の仇討ちを描いた『曾我物語』(鎌倉時代に成立した伝記物語)、『太平記』(室町時代に成立して、講釈師等によって語られた)などで、そのストーリーは、江戸時代では誰もが知っているようなものでした。



幟から顔半分を覗かせる朝比奈義秀(和田義盛(十三人の一人)の子)

後ろを振り返る和田義盛(左)の視線の先には、北条時政(頼朝の岳父、十三人の一人)

柱の左に子、万寿丸(源頼家)を肩に乗せた源頼朝。その背後には、北条義時(十三人の一人。北条時政の子)

手前に大きく描かれた比企能員(右)と梶原景時(共に十三人の一人)

① 歌川貞秀「鎌倉右幕下焼香場の図」弘化元年(一八四四)

源頼朝は、文治元年(一一八五)、壇ノ浦で平氏を滅ぼしたのち、鎌倉で父義朝の供養を行いました。右幕下とは右近衛大将(頼朝)の居所、あるいは本人を指す尊称です。

重臣たちが居並ぶ中で子の万寿丸(頼家)を肩に乗せた頼朝が、左の軒下に描かれています。背後に付き添っているのは北条義時(北条時政の子)です。

画中には当時の御家人が一通り見られ、左手前には、比企能員と梶原景時が大きく描かれています。



② 歌川芳員「建保元夏五月 和田大合戦」安政二年(一八五五)

頼朝没後の合議制に加わった十三人のうち、正治元年(一一九九)に梶原景時が弾劾され翌年死去。建仁三年(一一三三)には比企能員が比企の乱を起こして失脚し、ついに和田義盛も執権北条義時と不和が生じて、和田合戦へと発展。一族は滅亡しました。

和田合戦では、怪力、大男で有名な義盛の三男、朝比奈義秀が大奮闘しました。

図は、義秀と対戦した足利義氏(足利尊氏の祖父)が義秀に鎧の袖をつかまれたものの馬で堀を飛び越えて逃れたという逸話を描いています。中央、馬にまたがった義秀の右手には、義氏の赤い鎧の大袖が握られています。